
超能力支援委員会

雨汰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超能力支援委員会

【Nコード】

N9633U

【作者名】

雨汰

【あらすじ】

あの日はどうもおかしかった。

このお話はほぼノンフィクションの
完全オリジナルSF超能力バトルストーリー

本編とは異なる場合がございますが、ご了承ください

プロローグ

あの日の空はどこまでも高く、青かった。昨日まで続いた梅雨の長雨が嘘のように晴れ渡り、校庭に大きく口を開けていた水たまりも今はなくなりそうな勢いだ。昨日までのじめじめした空気はどこえやらという御様子。梅雨明け直後ということで、快晴なのにじめじめはまだ残っていて、文字通りの茹だるような暑さを体感していた。後で知ったが、その日は町の最高気温を大幅に更新したそう

だ。
長々と天気の話題を引つ張るのも限界が近い。要は何が言いたいかって言うと、『あの日』はとてつもなく暑くて、いやになったってことだ。

今から述べることは全て、あの日に起こったことであり、事実と異なる点は少ししかない。

とにかくあの日はおかしかった、朝学校に行こうと自転車こいでいると途中、チェーンが外れた。それもちょうど家と駅の真ん中で最高気温の中、命からがら自転車を押しながら駅まで行くと、前の駅の駅で熱中症で倒れた人がいるとかで電車は遅延していて間に合った。一時限目の授業で宿題をしたノートを忘れたことに気づいたが、先生の子供が熱を出したとかでその日の授業は自習になった。昼休みに購買のパンを買いに行っただが行列がすぐで買えなかった。教室に帰ると、顔色の悪い友達が早退するからと、パンをくれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9633u/>

超能力支援委員会

2011年11月13日20時52分発行